

今月の主なニュース

今月から文字が大きくなり、紙面が変わりました（編集部）

新コラム 「ヨコハマ スー&パーク」	「保健室」 平塚市立豊田小学校 斉藤晴香	「神奈川県薬物濫用防止条例」改正（投稿）
4面	3面	2面
		

医療研究の司令塔

日本医療研究開発機構 今年、4月発足・始動

医療研究の司令塔となる※日本医療研究開発機構（AMED）が4月に発足し、最先端医療の研究開発が加速すると期待される。非効率な縦割り行政から脱却するために、AMEDは省別だった予算を一元管理する。現在の医学界には、再生医療の発展など重点的に取り組むべき課題が目白押しだ。AMEDとはどんな組織で、何をめざすのか、ポイントをまとめた。

（読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員・佐藤良明）

LIFEの3つの 意味を意識した運営

横浜市で3月下旬に開かれた日本再生医療学会。AMEDの理事長に就任する末松誠・慶応大学医学部長が特別講演を行った。末松氏は、AMEDの概要を説明し、「LIFE（ライフ）の3つの意味、生命、生活、人生、を意識した運営を心がけたい」と語った。

病気で私たちが失うものには「生命」があり、他には「生活の質」もあげられる。健康で充実した人生を送れるようにとの願いが、ライフの3つの意味には込められている。

日本では従来、「がん研究」なら、厚生労働省は「治療」の視点で予算を出し、文部科学省は、がんの解明という「基礎科学振興」をめぐりて研究費を配分する。経済産業省は「産業化」

横浜市で3月下旬に開かれた日本再生医療学会。AMEDの理事長に就任する末松誠・慶応大学医学部長が特別講演を行った。末松氏は、AMEDの概要を説明し、「LIFE（ライフ）の3つの意味、生命、生活、人生、を意識した運営を心がけたい」と語った。

病気で私たちが失うものには「生命」があり、他には「生活の質」もあげられる。健康で充実した人生を送れるようにとの願いが、ライフの3つの意味には込められている。

日本では従来、「がん研究」なら、厚生労働省は「治療」の視点で予算を出し、文部科学省は、がんの解明という「基礎科学振興」をめぐりて研究費を配分する。経済産業省は「産業化」

構想当初は 日本版「NIH」

そこで、生命科学の大きな括りの中で予算を一元的に管理・配分している米国のNIH（国立衛生研究所）が「望ましい組織のあり方」と考えられた。AMEDも構想の当初は「日本版NIH」と呼ばれていた。NIHは、3兆円もの予算を握り絶大な力を誇る。27の研究機関の共同体で、

自前で研究開発も行う。これに対しAMEDは、自前の病院や研究施設は持たず、NIHほど司令塔機能が高まっているわけではない。AMEDは予算配分や連携の妙で革新的成果を指す。「重点プロジェクト」を掲げて、体制を整える。

AMEDには、事業部門として戦略推進部など6部がある。このうち戦略推進部は図1のように、重点分野となる革新的医薬品開発や再生医療のほか、がん研究などの7課がある。AMEDでは、図1でタテに並ぶ重点分野に横串を刺すように、「国際化」や「バイオバンク」など他の事業を絡めていく。

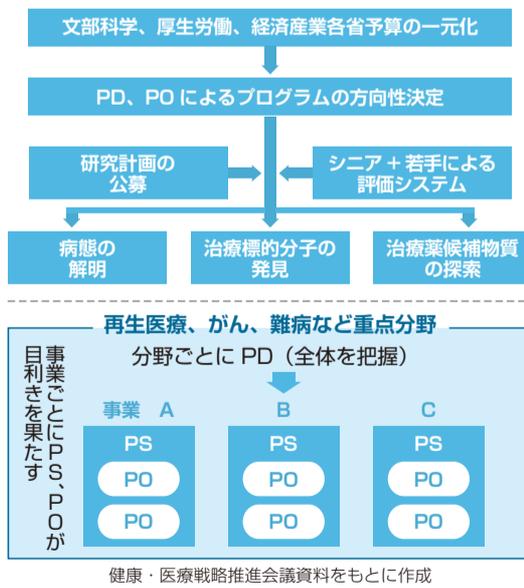
難病を例に

難病研究を例に説明しよう。難病は、概して患者が少

図1 AMEDの重点分野の連携イメージ



図2 AMEDにおけるPDなどの役割イメージ



基礎と実用の乖離は 医学界の長年の課題

AMEDの特徴として、研究の将来性を見る「目利き」一科学者をそろえた点もあげられる。職名でプログラム・ディレクター（PD）などと呼ばれる「目利き」を重視する背景には、こんな事情がある。

2012年、山中伸弥・京都大教授がノーベル生理学・医学賞を受賞した。山中教授は、無名だった奈良先端大時代に大型予算がもたらえる政府の生命科学プロジェクトに公募。大御所に「目利き」で研究計画が採択され、その後、iPS細胞誕生につながった。

海外に同じ病気の患者がいれば貴重な症例となる。データ収集は国際事業部の出番となる。一方、どの遺伝子が原因で難病が起るのか、遺伝子探索には「バイオバンク」のデータに頼ることがある。希な病気が発症するだけで創薬支援も欠かさない。このように、タテとヨコが互いに強化しあう関係を目指している。

この枠組みについては、米国に手本があった。

NIHでは、原因不明疾患の研究プログラム（UDP）が動いており、希少難病の

※日本医療研究開発機構（AMED）：医療研究の大方針は、国の健康・医療戦略推進本部（本部長＝安倍晋三首相）が決定する。機構は、この方針を具体化する国立研究開発法人として設立。AMEDの正式表記は、Japan Agency For Medical Research and Development。所在地は東京・大手町。300人体制で、2015年度は1,248億円の予算が計上される。

一貫した研究支援体制

科学界では、山中教授の例がよく引き合いに出され、「大化けする可能性のある研究をいかに拾い出すか」が焦点になった。キーワードは「先見性」だ。

AMEDの目利きたちは、図2のように職責の上位からPDのほか、プログラム・スーパーバイザー（PS）、プログラム・オフィサー（PO）がいる。PDが分野全体に目配りする。POが実務を担い、「第二のiPS」になりうる様々な研究に目を光らせる。AMEDの設立前から、政府が大型予算を出す科学プロジェクトでPDやPOは活動していたが、なじみの薄い存在だ。AMEDの設立は、目利きの重要性を浸透させる契機になるかもしれない。

末松氏は講演で「基礎から実用化までの一貫した研究支援を行う」と述べた。重点分野選定や目利き重視も、この一貫体制への布石だ。基礎と実用の乖離は医学界の長年の課題だった。AMED発足が解決の好機になるか、注目される。